

地域ポータルサービス（アプリ）を活用した地域情報の 効果的な発信によるコミュニティ活動の活性化

「^{ゆい}結ネット」を活用したコミュニティ活動の活性化

指導教員 公立小松大学 保健医療学部 教授 真田茂
 公立小松大学 生産システム科学部 教授 新田雅道
 公立小松大学 保健医療学部 准教授 佐藤大介

参加学生 大橋由萌・大森帆乃香・岡田さくら・喜多岡里彩・北川日菜・鈴木めぐみ・高橋美和・
 田丸佳穂・西谷佳名恵・判多美空・東咲貴子・古澤茉那・上島蒼

1. 活動の成果要約

稚松校下における地域ポータルサービス「結ネット」アプリを活用した地域活性化策を検討するため、地域住民との意見交換を実施した。その中で、稚松校下での結ネットの認知度の低さや、導入が中々進まないといった課題があることから、結ネットの紹介や登録方法、様々な機能追加の提案、活用策などをわかりやすくまとめた普及啓発用のパンフレットを作成した。

2. 活動の目的

稚松校下では、平成 30 年 2 月に小松市が設立を推進している地域運営組織として、『稚松はつらつ協議会「稚松が一番」』を設立し、「防災」「健康」「教育・情報」「環境」「文化」をテーマに活動を進めている。とりわけ、稚松校下は区域が広く、地域内の団体や住民相互の情報共有の円滑化、災害時における安否確認を効果的に行う仕組みづくりとして、結ネットの導入を重要事業に掲げている。そこで、本事業において、結ネットを活用したより効果的な情報発信やコミュニティ活性化策の提案を行い、地域コミュニケーションと地域経済の活性化への貢献を目指す。

3. 活動の内容

- 地域ポータルサービス「結ネット」アプリの目的や導入事例、仕組みを理解するため、小松市役所やサービス提供事業者との勉強会を開催し理解を深めた。
- 小松市における結ネット導入について、令和元年 7 月に公立小松大学内で小松市担当者から話を伺った。小松市では、平成 30 年 7 月から市内全 246 町内会との行政連絡手段として導入が行われ、大雨や台風などの災害時において迅速な情報伝達に繋がっているとのことであり、各種会合などの案内も結ネットを通じて行っており、出欠確認機能もあることから、効率的な事務執行など様々な改善効果が表れているとの評価であった。また、サービス提供事業者を交えての勉強会では、実際に教員や学生も結ネットをダウンロードし、日々使用しながら機能の便利さを体験するとともに、より便利で楽しい機能のアイデアや、地域住民にとってニーズが高いと思われる情報の種類などについて検討を行った。
- 結ネットを導入した先進地区への視察のため、令和元年 8 月 25 日（日）に行われた金沢市米泉校下での結ネット安否確認機能を活用した防災訓練に参加した。米泉校下は全 3,167 世帯 6,797 人で稚松校下 3,620 世帯 8,513 人（いずれも令和 2 年 2 月 1 日現在）と若干規模が小さい校下である。米泉校下は若者から高齢者まで広く情報共有することで、地域行事に参加しやすい環境をつ

くり、災害時の安否情報や被害情報の早期把握、対応につなげることを目的に平成31年4月から結ネットの本格導入を開始し、8月25日時点の登録者数は853人の状況であった。導入率は全住民の13%であるが、防災訓練時においても結ネットの機能や便利さを広く参加住民に紹介し、当日も多くの方が登録を行う様子が見られた。防災訓練では結ネットを活用した安否確認訓練も行い、登録者のうち681人、約8割の応答があり、有効な情報確認ツールであることが伺えた。

○こうした勉強会を踏まえ、定期的に稚松校下の結ネット推進リーダーと意見交換を実施し、導入状況等について情報共有を行うとともに、結ネットの普及促進や全世帯に導入された際の活用策等について検討を行った。普及促進にあたっての課題としては、結ネットの仕組みや導入の効果、LINEなど他のSNSとの違いが分かりづらいなど結ネットの認知度が低いことが真っ先に挙げられた。また、結ネットが全世帯に導入された際に、誰がどんな情報をどのように発信していくのかなど運用方法も課題であることが分かってきた。このため、稚松校下全世帯に結ネットをわかりやすく紹介し、導入したくなるような普及啓発用のパンフレットの作成・配布が重要であるとの結論に至った。

○今年度の目標をこのパンフレット作成とし、掲載内容について、学生を中心に稚松校下の住民も交えワークショップを開催し、結ネットの魅力を再認識するとともに、有効な活用策について議論を深め、パンフレットの編集に取り組んだ。

4. 活動の成果

○稚松校下における結ネットの導入について、地域住民にとってのメリットが感じられないという声もあり、いかに住民にとって日常的にも災害時等の非常時にも有効なものであることを伝えられるかという課題への対応に苦慮した。また、結ネットは地域ポータルサイトとして、地域住民のコミュニケーションの活性化や、地域情報の効果的な発信による外出の促進、地域内の店舗等の活性化への期待もあることから、「導入したくなるには?」「どんな情報が必要?嬉しいか?」「地域活性化のための活用策は?」という点から普及促進及び活用策を検討した。

○具体的な提案として、脳トレなどのゲーム機能や病院の予約機能を付加することで、高齢者への普及につながる。

○お祭りや公民館の教室、校下の文化祭などは、イベントの案内とともに、参加できなかった人にも様子を写真付き記事で発信するサービスがあるとよい。

○地域経済の活性化のため、移動販売車の位置情報や、お店の特売情報などを定期的に発信。

○アプリをダウンロードしただけでは意味がなく、日頃から結ネットを利用することが重要であるため、ログインした際のポイント付与や結ネット協賛店舗で利用できるクーポンへの引換サービスなどを導入する。

○こうした提案内容をわかりやすくまとめた、結ネットの広報ツールとなるパンフレットを作成し、地域住民に大変喜んでいただいた。

○今回の活動で、超スマート社会におけるICTを活用した情報発信やコミュニケーションの活性化は、若者だけでなく、シニア世代を含めた全ての人にとって有効で大事なテーマであることが理解できた。そのツールの一つとして、結ネットの普及促進及び活用策を提案し、パンフレットを作成したことで、地域課題解決への小さな一歩を踏み出すことができたのではないかと感じている。

5. 次年度の計画

今後は、地域住民とのワークショップなどを通じて、さらに結ネットの活用策や運営方法を検討し、人口減少時代における持続可能な仕組みづくりを提案していきたいと考えている。また、本学の地域

活性化サークルが開発した商品などについても結ネットで情報発信し、地域と共にある大学として地域との関わりを深めていきたい。

6. 活動に対する地域からの評価

稚松校下全世帯への結ネット導入を目標に普及促進に取り組んでおり、当初の予定より導入の進捗状況に遅れが出ているものの、先生や学生のみなさんより様々なアイデアをいただくことができ、今後の一つひとつの提案の具現化について検討を行っていききたいと考えている。また、広報用に作成いただいたパンフレットは、地域の防災訓練などにも活用し、普及啓発に大いに役立つことも期待される。今後も連携・協力をいただきながら、「稚松が一番」をキャッチフレーズに稚松校下のさらなる地域活性化に向けて取り組んでいきたい。

<活動の様子>



サービス提供事業者による勉強会



米泉校下防災訓練視察



地域住民を交えたワークショップ（意見交換・パンフレット編集）